

# 繊維月報

vol.611  
2011  
since 1960

3

毎月1回発行

発行：伊藤忠商事株式会社 繊維経営企画部  
大阪市中央区久太郎町4-1-3  
TEL：06-6241-2027 FAX：06-6241-2008  
URL：http://www.itochu-tex.net  
本紙に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。osaxp-ad@itochu.co.jp



ITOCHU Mission

Committed to the global good

豊かさを担う責任

Vol.611 CONTENTS

Special Feature /	“製・販 激変” 中国の“いま”	1-3 面
Topics /	マーケットレポート／ニュース・クリッピング	4 面
World Report /	アジアのアパレル生産事情 ③	5 面
Fashion Report /	二極化するハナコジュニア消費、アプローチのカギは高感度層と共感にあり	6 面

## 中国繊維グループ幹部に聞く

# “製・販 激変” 中国の“いま”



飛躍的な経済成長を遂げ、2010年には世界第2位の経済大国に躍進した中国。しかし、その産業構造はいま大きく変化しています。賃金の上昇など諸コスト高で生産をめぐる状況が様変わりを見せている一方、所得の向上によって、今後ますます成長する中国消費市場への期待が高まっています。今月号は中国繊維グループ長（兼）ITOCHU Textile Prominent (Asia) Ltd. CEOの中西英雄、伊藤忠繊維貿易（中国）有限公司董事長の林史郎の両氏に、中国の“いま”を語っていただきました。

出席者

中国繊維グループ長（兼）ITOCHU Textile Prominent (Asia) Ltd. CEO 中西 英雄  
伊藤忠繊維貿易（中国）有限公司 董事長 林 史郎

司会進行

伊藤忠商事 繊維カンパニー 中国戦略ディレクター 大月 秀夫

### 生産事情

## 大転換期を迎えた中国



大月 中国はいま大きく変わってきています。マーケットとして中国が注目されながらも、実際どのように取り組めばいいのか迷っておられる企業も数多いことと思います。また、中国の繊維企業が今後どのような方向に向かうのか、これも関心のあるところだと思います。昨年に顕在化した生産をめぐる問題がさらに深刻になっていく気配もありますので、まず中国の生産問題について、林さんから実情を紹介ください。

林 衣料品の生産拠点として中国は昨年、大きな転換期を迎えました。2008年のリーマン・ショックから2009年は世界的な、深刻な不況局面を迎えましたが、2010年は前半スローながらも後半は欧米を中心に経済が急回復しました。その中で中国は、世界経済をけん引する役割を果たしました。政府の財政出動もあって中国の内需は世界経済にとって欠かせないものとなりました。この市場としての成長が今後も注目の的になっていくと思います。

2010年の中国新車販売台数は、購入補助政策などによる駆け込み需要もあり、前年比32.4%増の1806万台超と大幅増を記録し、2年連続世界一となりました。また、中国商務部のまとめによると、2月の春節（旧正月）期間中のセールが前年同期比19%増の4045億元（約5兆円）という驚異的な数字に膨れ上がりました。これらが象徴的と言えます。

その一方で、昨年来、衣料品生産において混乱が生じ、より深刻さを増してきました。エネルギー価格の高騰、CO削減を目的とした政府の電力制限などによる工場稼働率の大

幅低下。さらに労働力不足、華南地区から全中国に広がる賃金上昇に伴う全般的なコスト高、そして綿花高に代表される原材料の高騰で、労働集約型産業である繊維産業はまさに四面楚歌といえる状況に追い込まれています。

輸出主導の衣料品生産は沿海地区から始まり、それら地域での賃金の上昇、コスト高を嫌って南から北へ、そして内陸部へと向かった歴史があります。例えば上海市、江蘇省、浙江省で生産していたメーカーは安徽省や湖北省といった地域からさらに四川省などの内陸部への移動を進めてきました。

ただ、これにも問題があります。現在、政府主導による高速道路網の整備などで地方の発展は目を見張るものがあります。地方でもウォールマートやカルフルといった大型商業施設やマクドナルドなどの飲食チェーンが進出し、第三次産業が急速に発展してきました。そうしたサービス型の産業に労働力を奪われつつある現実があります。

大手繊維メーカー幹部によれば、これら第三次産業が従業員の大量募集をかけると、転職する従業員が増えるようです。つまり地方が発展すればするほど、内陸部への産地移動がこれまでのように単純に進まなくなることです。その意味でも繊維・衣料生産にとって大転換期を迎えているのは間違いありません。

大月 そうした状況に対する欧米企業の対応はどうなのでしょう。

### 従来型発注方式に限界

林 生産発注時期を早める傾向にあります。素材手当て・製品発注ともに仕掛けが早く、日本企業は後手に回っている印象がありますね。

しかし、意外に日本では見落とされがちなのが、中国国内アパレルの急成長です。彼らは量的にはもちろん、品質的にも先進国アパレルを凌駕する勢いで急成長を遂げています。生産スペースの確保にも戦略的に取り組んでおり、すでに来シーズン物のダウンウェアなどの発注が進んでいると聞いています。従来型の日本の発注方式、つまり多品

種・少量・短サイクル対応では、欧米勢どころか中国勢にも後れを取りかねません。優良な縫製スペースはまさに取り合いといった有り様で、この傾向はますます強まると思います。中国は、綿糸布輸出国から輸入国に変わりましたが、今後は縫製品も輸入国に転じる可能性さえあります。

大月 華南地区は中国縫製の拠点であった時期がありました。香港から見て、この中国の衣料品生産をめぐる問題はどのように映っていますか。

中西 今後、香港で繊維のビジネスがこれまでの形では成立しなくなるのではないかと危惧しています。わたしは1990年代前半に初めて香港に駐在し、その後2005年に2回目、2010年から3回目の駐在となりましたが、怖いのは繊維産業に携わる人々がその度に減少していることです。

かつて香港の繊維人は華南地区に工場を

持ち、輸出ビジネスを手がけていました。華南地区のコストが高くなると、華東、華北へと最適生産地を求めて移動していましたが、今の彼らのモチベーションは「製造業よりサービス業」というものです。中国内販や東南アジアへ小売業で進出したほうが儲かる、というふうな投資マインドが大きく変化しています。これは何も製造業に限ったことではなく、商社などでも同様で、モノ作りが分かる人材の確保が年々難しくなっています。

大月 “チャイナ・プラスワン”を求め、ベトナムやバングラデシュ詣でが盛んです。

中西 アパレルや小売店関係の出張者も増えてますね。ただ、両国とも素材背景など底が浅く、優良な工場はすでに生産スペースが満杯です。生産拠点を設けるなら新規に投資して一から作らざるを得ません。プラスワンの候補ではありますが、絶対的なスペース不足の解消は難しいと思います。



写真左から、中西 英雄、大月 秀夫、林 史郎









